

平坦部向け飼料用米専用品種を選定しました

家畜に与える輸入飼料の代替品として、水田で作付される飼料用米が注目されています。飼料用米には多収性が求められるため、主食用米に比べて肥料水準は高くなりますが、安定的に多収を得るためには地域に適応する品種の選定と、目標収量を得るための施肥水準を把握することが必要です。

本研究では県内平坦部に適した飼料用米品種の特性や目標収量を得るための窒素施肥量について明らかにしました。

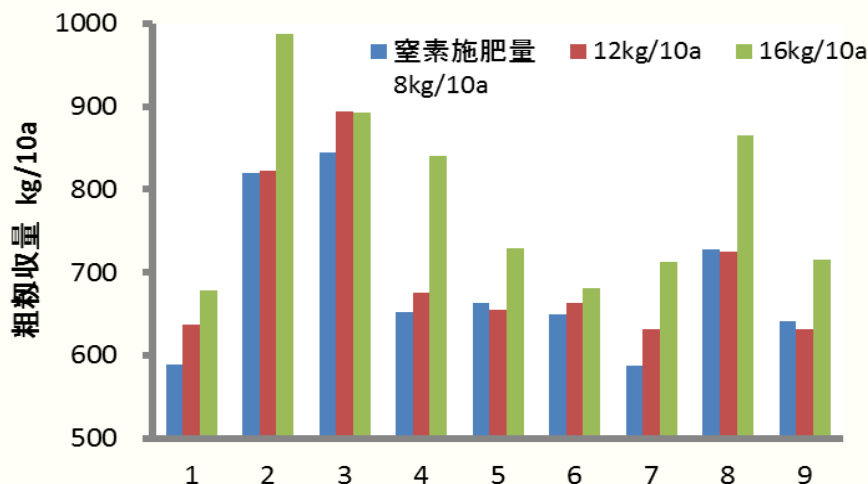


図1 窒素施肥量の違いが粗粒収量に与える影響と品種間差(平成23年度)

- 供試した品種
(左図の横軸の番号に対応)
- 1 ゆめあおば
 - 2 北陸193号
 - 3 もちだわら
 - 4 ホシアオバ
 - 5 モミロマン
 - 6 クサホナミ
 - 7 クサノホシ
 - 8 ミズホチカラ
 - 9 あさひの夢(食用米)

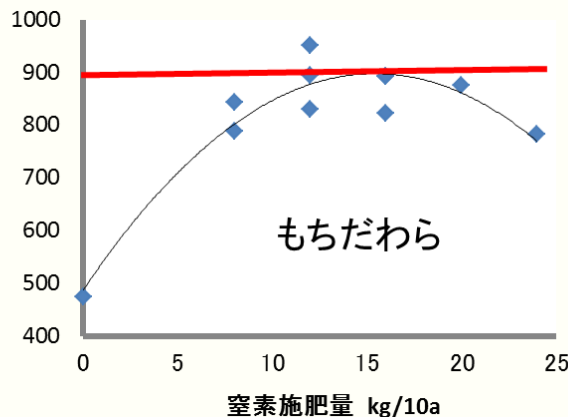
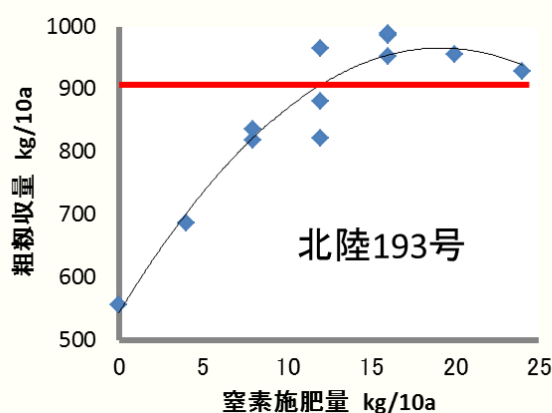


図2 粗粒収量900kg/10aを得るための窒素施肥量

(研究成果)

- ・平坦地向きの品種として収量性の点から、中生品種「北陸193号」と「もちだわら」が有望です。
- ・目標粗粒収量を900kg/10aとすると窒素施肥量は12kg/10a必要となります。ただし「もちだわら」では若干収量が下回ります。

(留意点)

- ・両品種とも県平坦部で発生が見られる稲縞葉枯病に対する抵抗性を持つため、縞葉枯病による減収等の被害を防ぐことができます。
- ・窒素以外の成分についても養分吸収量が多くなるため、別成果の「飼料用米栽培における養分吸収の特性と土壤養分への影響明らかにしました」を参考に施肥量を決める必要があります。